

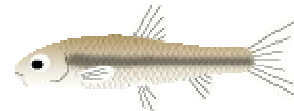
## 第 71 回定例会の案内

6 月 28 日(日) 午前 10:00 ~ 12:00 於 田主丸中学校

情報交換、

タナゴ類の放流会等取り組み状況報告

B 水路の魚類調査等



第 70 回定例会 5/24(日) 10:00 ~ 12:00 於 田主丸中学校

【情報交換】飼育状況報告(高橋布) 昨年生まれが 1854 尾、今年分が 1096 尾(生存率 59%) を 5 個の水槽で分けて飼育、ヒーターを設置しない方の生存率(95%)が良い。設置は 16.8%。

(別府) 23 尾の親魚、3 尾くらい腹部が膨らんでおり生まれたか不明。1 尾が腹をつついていたので、別にしたが生まれていなかった。(佐東) 産卵はなかなか難しい。ペラングに 1.5mm のゴムシートを使って 1.3m の水槽を自作し泥と水草を入れた。ホテイアオイに 5~6 個の卵を確認できたので別の水槽に移した。(国武) 今日もらった 16 尾を大きな水槽に移す予定。(秋山) 3 年生の雌が 20 尾、雄が 5 尾。50 尾くらい割れている。昨年の子が 30 尾。



(甲木) 先月生まれたものが 1cm くらいになっている。7~80 尾くらい。今月(5月)産卵したものが泳ぎ始めた。親魚は 90 センチ水槽に 40 尾。雄が追い始めたらオオカナダモを入れて一晩経ったら親を外す方法で飼育している。(長野) 親魚は 40 尾。4/29 に 1 回生まれたが全滅した。先週雨が降った時にセットしたがどうなったかな。今年から親を外す方法で実施。(山崎) 昨日セットした。(大石) 養護学校で飼育、4 月にかなり産卵したが急な冷え込み等でかなり死滅した。後日産卵したものが餌を追っている。(鐘ヶ江) 水分小に船越小から 10 尾くらい持ってきたが、5/10 頃生まれたものが 200 尾くらいいうじゃうじゃいる。先週バラタナゴを 2~30 尾くらい捕獲して水槽に入れている。(村上) 親魚 15 尾くらい、稚魚は 4 月分が 100 尾くらい、一ヶ月で 1~1.5cm くらいまで大きくなった。5/6 に二田の堤を掃除した際に捕獲した稚魚はすべてヒナモロコだった。昨日も 1cm くらいのものを 10 尾くらい捕獲したがヒナモロコかどうかは不明。

【県との協働事業】今後の対応について説明しました。

【ヒナモロコ冊子の配布先】川那部浩哉・現琵琶湖博物館長、川嶋睦己・筑後川発見館くめウス、朝倉農林事務所、市文化財保護課、土地改良区の皆さん、淡水魚関係者などなど。(村上)

【B 水路の調査】朝倉農林事務所からの依頼に基づき、水路の魚類調査をしました。朝 9 時にセルピン 5 個をセットしたものを引き上げ、サデ網と四つ手網を使い捕獲する方法で実



施しました。結果の概略は次のとおりです。下流からセルピンでオイカワ3尾、深みでオイカワ1尾(サデ網)、ビオトープにて四つ手網でヒナモロコ10尾、セルピンでヒナモロコ5尾、オイカワ2尾、途中目視でヒナモロコ3尾、サデ網で2尾のヒナモロコ、セルピンで3尾、セルピンで8尾、サデ網でオイカワの稚魚1尾、セルピンでヒナモロコ1尾。目視も含めヒナモロコは32尾確認できた。(農林田中さんを含め8名参加)



【九州・水生生物研究所訪問(稲田さん)】

午後は稲田さん研究所を見学させていただきました。ヒナモロコの餌としてミジンコを利用できると良い結果が得られると思われま。稲田さんには説明と一緒にタマミジンコと餌、水草等々を頂戴しました。



タマミジンコの休眠卵



ミジンコ用の餌、クロレラと鶏糞のエキス

見学者一同頑張ってミジンコを増やしてみようと決意しました。頂いたミジンコは増えているでしょうか。今年の課題は餌の確保になりそ



ミジンコの培養装置を覗いている佐東さん。



コイの稚魚が大量に育っていました。

うです。従来のアユ用飼料をコイ科用飼料に変えることを事務局長からも提案されています。

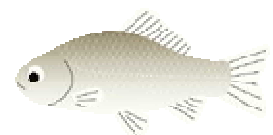
散骨 6/7 故山川英毅氏の散骨を関係者で実施しました。(合掌)

訃報 6/10 木村晴朗先生御逝去。木村先生あつてのヒナモロコであり、里親会でした。先生の功績については言うまでもありません。この場を借りて心よりご冥福をお祈りいたします。(合掌) 別報にて詳細はお伝えします。

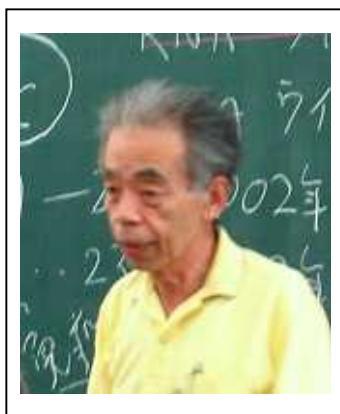
タナゴ用水路(環境水路)への放流会参加 6/19(金) このことについては定例会及び次号通信にて詳しく報告します。このときの模様は6/19夕方NHKにて放映、6/25(木)7時半頃KBCアサデスにて放映予定です。

【事務局会6/19(金) 17:00 水分小学校にて】この事務局会もKBCが取材していました。

次回 第72回定例会の予定  
7月20日(月) 10:00~12:00 於 田主丸中学校  
水辺の教室  
B水路(ヒナモロコ水路)調査、放流地を探る調査等



## 訃 報



謹啓 去る6月10日、ヒナモロコ里親会前顧問、元九州大学農学部教授 木村清朗先生が逝去されました。脳梗塞、享年77才でした。

葬儀は、興子夫人により、6月12日、香椎典礼会館(福岡市東区)で執り行われました。

ご遺族のご希望等もあり、ヒナモロコ里親会役員のみのお席となりました。会員各位におかれては、このような形で御連絡が遅くなりましたことを心よりお詫び申し上げます。

振り返ってみますと、平成5年(1993) 故木村先生(当時九州大学教授)が、田主丸町中央公民館で講演され、「ヒナモロコは町内を探せば見つかる可能性がある」と話されたことが、ヒナモロコの再発見に繋がりました。翌、平成6年(1994)には、耳納塾が主催したシンポジウム「ヒナモロコのつぶやき」をきっかけに、田主丸町巨瀬川南側の水路でヒナモロコの生息を確認する事になったのです。

ヒナモロコ里親会の今の活動の基礎をお作りいただいたといっても過言ではありません。

また、故木村先生は、絶滅危惧種「ニッポンバラタナゴ」の専門家でもありました。九州産ニッポンバラタナゴに関する学術的な功績は大変大きく、その生態調査と保護活動にも尽力されました。

ヒナモロコ里親会会員各位におかれては、里親会を発展的に将来に引き継いで行くことが、故木村先生のご意志に添った責務と思います。

紙上を借りまして、心よりご冥福をお祈りいたします。

合 掌